

リバーフロント研究所研究発表会他 ライブ配信及びオンデマンド配信による啓発活動について

企画グループ

リバーフロント研究所は、調査研究、技術開発だけでなく、その成果、技術等を積極的に情報提供、普及啓発する役割があります。

しかしながら、令和になって広がった新型コロナウイルス感染拡大の影響等により、令和2年度は、その活動の縮小、中止を余儀なくされていました。

令和3年度においては、社会的に浸透したオンライン活動を通じて、新たな活動展開を目指しましたので、その主な内容を紹介します。

これらの活動は、従来会場に集まりいただき開催してきたものでしたが、オンライン配信することで、結果として、どの活動においても参加人数はそれまでより多くなり、全国の関心ある幅広い方々に視聴、さらには質問も含めての意見交換が行われ、今後のよりよい効果が期待される結果となりました。

なお、これらの多くは、リバーフロント研究所のHP (<http://www.rfc.or.jp/ivent2021.html>) にてまだ公開しているものが多く、未視聴の方のご利用を期待いたします(ウェブセミナーは、ライブ配信をオンラインで行い、その時の発表内容は現在もオンデマンド配信しています)。

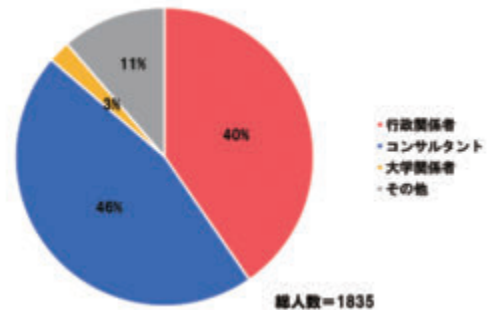
今後は、社会にさらにデジタル技術が浸透することから、これらのツールの一層の活用を図っていくこととしています。

(1) 第29回リバーフロント研究所研究発表会

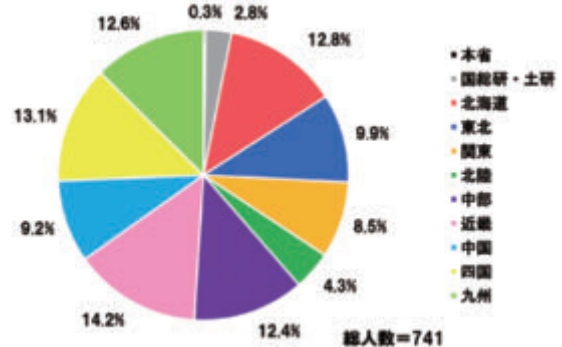
第29回リバーフロント研究所研究発表会は、昨年に引き続きオンデマンド配信の形式としました。今年度は、特別企画として、河川水辺の国勢調査30年の成果と今後の課題について、各分野の有識者の方々の座談会も加えています。昨年度より視聴回数は増加し、視聴回数は3千回を超えました。

(2) 大河川における多自然川づくりウェブセミナー

令和3年度は4回にわたってウェブセミナーを開催しました。大河川における多自然川づくりQ&A形式で理解を深める(国土交通省水管理・国土保全局)の内容紹介等を、行政、研究者等の方々にいただき、4回延べでの申込者は1835人を数えました。参加者の職種内訳は、おおよそ行政関係者4割、コンサルタント関係者5割、その他大学関係者等となっています。また、行政関係者の参加申込者の勤務地分類でみると、全国から視聴いただけたこととなりました。



参加申込者職種分布



参加申込者(行政関係者)地域分布

(3) 第18回「川の自然再生」セミナー、「小さな自然再生」現地研修会

第18回「川の自然再生」セミナーは、「自然と共生するDX～河川・流域環境を把握する最新技術～」をテーマに、UAV画像・グリーンレーザー測量・センサネットワーク・環境DNAの活用を紹介しています。

一方、「小さな自然再生」現地研修会は、既に公開期間は過ぎましたが、当研究所が事務局を担う「日本河川・流域再生ネットワーク」(JRRN)より、市民が河川や水路の管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の活動紹介等を行ったものであり、今後も継続して情報発信をしていく予定です。

(4) 令和4年度に向けて

令和3年度のオンライン配信の活動は、コロナ禍で活動制約がある中でも、全国の関心のある方に情報発信ができました。令和4年度もこの活動を継続してまいります。